

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	先端社会研究所
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものである
要素	教育研究組織の編制原理
	理念・目的との適合性
	学術の進展や社会の要請との適合性
	(KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究所の活動理念としてresearchとempowerment、実践目標としてNetworking, Education、活動事業としてarchive, publication, workshop, S-cubeをそれぞれ置く。	→運営委員会による研究所の活動計画・実施状況・成果発表に関する評価の実施。	B	B	B		
2. 学部・部局横断的な研究・教育体制のもとで、「共生/移動」「景観/空間」「セキュリティ/排除」を三つの柱として関学らしい学際的な研究業績の発表を目指す。	→リサーチコミティをはじめ複数学部・研究科に所属する教員による研究体制・グループの構成状況の内訳。「ミッションステートメント」に適った研究の実施状況。	C	C	B		
3. 海外との学術ネットワークの構築に基づき、「共生/移動」「景観/空間」「セキュリティ/排除」に関する国際的な研究組織・体制を確立する。	→海外との研究教育機関との協定/協力関係の状況(実施件数)。研究者の海外からの受入れと海外への送り出しの実施状況(実績数)。	C	C	B		
4. 国内の関連する諸機関・組織との協同体制の確立に基づき、「共生/移動」「景観/空間」「セキュリティ/排除」に関する学際的かつ実践的な研究体制を確立する。	→大学外の諸機関・組織との学術交流・研究活動の状況(研究会・交流会の実施回数等)。ワークショップやSキューブの開催・実施状況(実施回数、共催相手数、等)。	B	B	B		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	毎月定例開催される運営委員会において、研究所の活動計画・実施状況・成果発表に関する評価に併せて検証を行うとともに、3ヶ月に1度の研究推進社会連携機構評議員会への活動報告によって、実施状況の評価の観点からその適切性を検証している。
目標2	共同研究として三つのプロジェクト（①共生／移動、②景観／空間、③セキュリティ／排除）体制のもとに研究所としての研究活動を遂行した。各プロジェクトのもとに指定研究と公募研究を設け、後者採用に際しては全学に広く呼びかけるかたちで募集を行った。各プロジェクトの研究進捗状況や課題等に関しては、定期的（原則として月一回）に開催されるリサーチコミティの場で報告と協議の機会を設け、三つのプロジェクトの有機的な関連性の形成に努めた。
☆ 目標3	オランダ国立戦争資料研究所(NIOD)との学術交流を進め、国際ワークショップ“The Power of Healing - or the Healing of Power? A Critical Workshop on the Memory of War”を共同開催した。中国・雲南社会科学院との現地共同調査（中国・雲南省）を実施した。ドイツ日本研究所（東京）との間で、定期研究会への大学院生の派遣を中心とする研究所間交流を展開した。
目標4	研究会は合計12回開催した。プロジェクト研究における成果の中間報告を目的として、シンポジウム「関西私鉄文化を考える」を開催した。双方向的な研究交流の場として、写真展「『赤い家』の真実—戦争被害を語り継ぐ—」、映像上映会「ポスト・ユートピアの映像民族誌—Cuba Sentimental—」、シンポジウム「安曇野景観と安曇野の水を守る」（安曇野市等との共催）、市民参加型エクスカーシオン「大阪市北区中之島および近鉄関連の郊外住宅地巡検」を実施した。
備考	